

[成果情報名]水田後作圃場における露地アスパラガスの株養成期間の病害虫防除対策

[要約]水田後作圃場における露地アスパラガスの株養成期間に被害が大きい病害虫は、茎枯病とヨトウムシ類であるが、茎枯病は銅剤(IC ボルドー66D)、ヨトウムシ類はBT剤(ゼンターリ顆粒水和剤)の散布により発生を抑えることができる。

[キーワード]露地単年どりアスパラガス、茎枯病、薬剤防除

[担当]長崎県農林技術開発センター・環境研究部門・病害虫研究室

[連絡先]電話 0957-26-3330

[区分]野菜

[分類]指導

[作成年度]2014年度

[背景・ねらい]

本県戦略品目であるアスパラガスの規模拡大を図るため、水田後作圃場における環境に配慮した露地単年どりアスパラガスの生産技術確立が求められている。そこで、本栽培体系の株養成期間における病害虫発生状況とその有効な防除対策を検討する。

[成果の内容・特徴]

1. 露地アスパラガスの株養成期間に発生する病害は、斑点性病害、茎枯病、灰色かび病であり、虫害ではアザミウマ類、ヨトウムシ類である。その中で被害が大きい病害虫は、茎枯病とヨトウムシ類である(データ略)。
2. 水田後作圃場における露地アスパラガスの株養成期間には、茎枯病の発生は少なく、銅剤(IC ボルドー66D)の定期的な散布により発生を抑制できる(図1)。
3. ヨトウムシ類は8月中旬頃から発生が確認されるが、発生に応じたBT剤(ゼンターリ顆粒水和剤)の散布により密度を抑制できる(図2)。

[成果の活用面・留意点]

1. 水田後作圃場における露地アスパラガス栽培の防除対策を考える際の資料として活用できる。
2. 茎枯病の侵入防止のため水田後作圃場であっても、周辺にアスパラガス圃場、あるいはアスパラガス栽培履歴のない圃場の選定を行う必要がある。また、茎枯病発生圃場で使用した農機具類は必ず洗浄して使用する。
3. 茎枯病は断続的な降雨により発生が助長されるため、降雨が多い年は株養成期間初期から銅剤(IC ボルドー66D)の散布を行う。

[具体的データ]

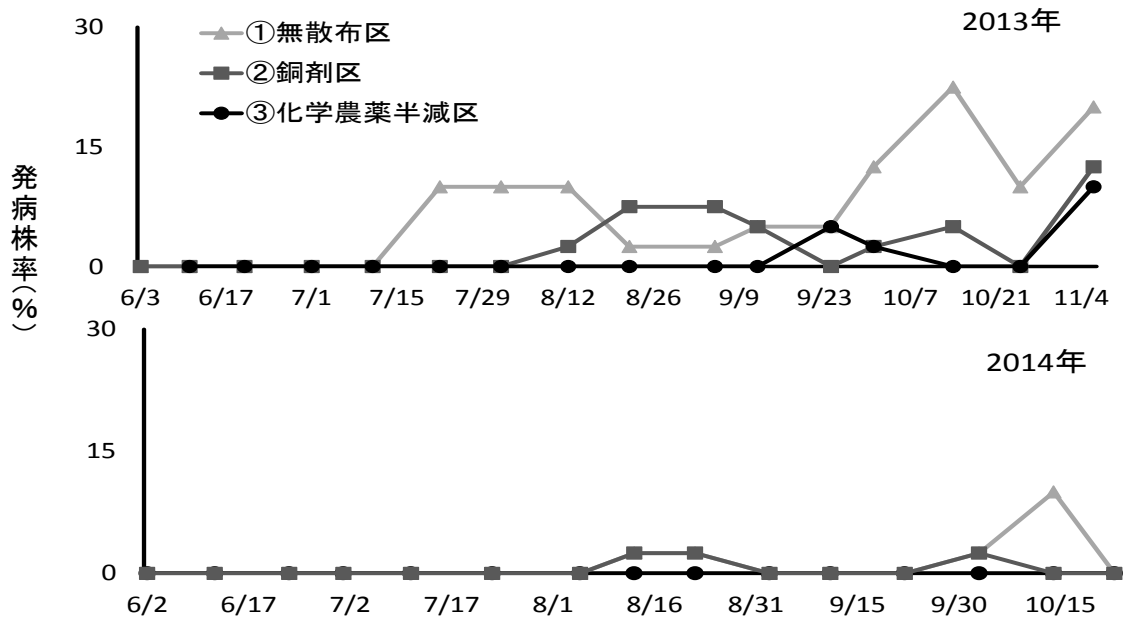


図1 茎枯病発病株率推移

- 1) 試験場所：農技セ内水田後作圃場
- 2) 供試品種：ウェルカム
- 3) 調査期間：2013年6/3～11/6(株養成期間：4/12～12/24)、
2014年6/2～10/23(株養成期間：4/11～12/24)
- 4) 区構成：20株、2反復
 - ①無散布区
 - ②銅剤区：10日毎にICボルドー66D(100倍)散布(5-10月)
 - ③化学農薬半減区：10日毎に化学農薬とICボルドー66Dを交互に散布(5-10月)

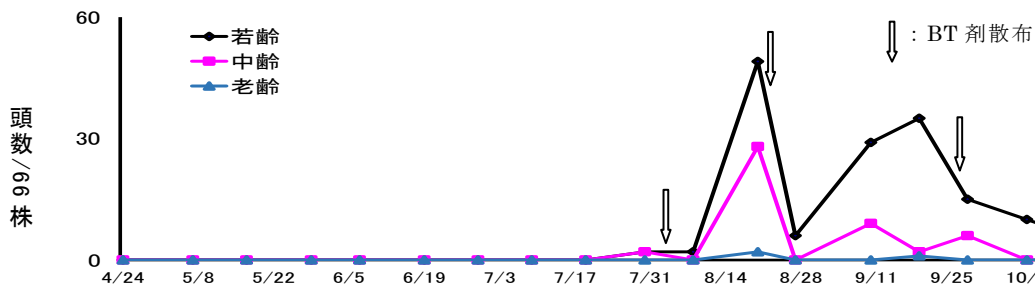


図2 ヨトウムシ類発生消長(2012年)

- 1)試験場所：農技セ内水田後作圃場
- 2)供試品種：ウェルカム
- 3)調査株数：66株
- 4)調査期間：4/24～9/26(株養成期間：4/11～12/20)
- 5)BT剤散布：8/6、8/20、9/24

[その他]

研究課題名：規模拡大を目指した露地アスパラガスの生産技術確立
 予算区分：県単
 研究期間：2010～2014年度
 研究担当者：植松綾子 森三紗 陣野泰明 高田裕司 吉田満明